

トピックス6

先進技術の導入に向けた北九州市の取組 ～介護ロボットの活用やICTを用いた 先進技術の導入等について～

産学官の連携により介護ロボットやICTを用いた先進的介護の実証を進め、介護職員の負担軽減等に取り組んでいる自治体がある。モノづくりの集積地として発展してきた背景も生かし、国家戦略特区制度を活用して、先進的介護の拠点形成を目指している北九州市の取組を紹介する。

1. 北九州市の目指す先進的介護

北九州市は、介護ロボット等を活用した成功モデル「先進的介護¹⁾」の創造を目指し、全国に向けて発信している。先進的介護システムにより実現される「先進的介護」モデルとは、「介護従事者にとって最も魅力的」で、「介護が必要な人にとってサービスの質が高く」、「介護ロボット産業の活動が、質・量ともに最も盛ん」な都市となることである。

そのために、介護現場の声にしっかりと耳を傾け、最新型のロボット・テクノロジーに関するアンテナを高く張り、国や関係機関と連携し、将来の日本、世界のモデルとなるような介護の実現を目指してチャレンジしている。



【図1 北九州モデルの先進的介護】

2. 背景

少子高齢化の進展、労働環境や処遇を理由とした介護職員の離職などにより、介護現場の人材不足は全国的に深刻化しており、北九州市も同様の状況にある。

北九州市は政令指定都市の中で最も高齢化率が高く、平成5年に「北九州市高齢化社会対策総合計画」を定めて以来、高齢社会対策に取り組んできた。このため、市内の医療・保健・福祉関係者にはこれまでの経験と実績が蓄積されている。また、モノづくりの都市として発展してきたことから、ロボットや情報通信技術など高い技術力を持つ企業や学術研究機関も集積している。